

松本市子ども日本語教育センター便り

令和1年12月



松本市渚 1-5-34
松本市立田川小学校内
電話 0263-25-7143

元号が令和に改まり、初めての年の瀬を迎えました。

この一年は、4月の「出入国管理法」改正、6月の「日本語教育推進法」の施行など、日本に住む外国由来の人々をめぐる情勢が大きく変化した年でもありました。連日のように外国人労働者に関わるニュースが報道され、日本語を学ぶ子どもたちにも全国的にスポットライトが当たりました。とはいえ、具体的かつ実務的な動きはまだまだで、今後の国、自治体の対応が待たれるのが現状です。

本年も、学校の先生方をはじめ多くの方々にお世話になり、ありがとうございました。

中学校生活に期待を寄せて・・・

「外国由来小学生のための 中学進学説明会」開催

「小学校と中学校はどこが違うの?」。小学校とはずいぶん異なる日本の中学校生活について、外国由来の子どもや親に知ってもらおうと、11月9日(土)に「外国由来小学生のための中学進学説明会」がなんなんひろばで開かれました。5つの国や地域から12家庭16人が参加し、理解を深めました。



学校制度が異なる国で教育を受けて来た子どもたちのお父さん、お母さんにとって、日本の中学校生活を想像するのはとても大変です。今回の説明会では、そんな親御さん向けに、小学校生活との違いを中心に、部活や勉強、その先の進路のことなど、市教育委員会指導主事が具体的に説明をしました。また、各国の言語ごとに通訳が入ったことで、参加者はわからないこと、不安なことなどを母語で質問できました。

参加者からは、「日本語とともに学習理解が心配」「いじめは大丈夫か」「外国人として厳しい目が向けられても、子どもは頑張っていけるのか」といった不安な声も挙がりましたが、「今日の説明を聞いて、子どもが楽しく中学校生活を送れるように応援したいと思った」という前向きな声もありました。子どもたちのために、まずは親御さんに知ってもらうことが大切だと感じた説明会となりました。

小学生に続き・・・

「外国由来来入児のための 就学前相談会」開催のお知らせ

4月から始まる小学校生活について、日本の小学校生活の基礎知識をお話する「就学前相談会」を、2月1日(土)、なんなんひろばで開催します。来入児の保護者が対象です。通訳がいるので、わからないことや不安なことはその場でなんでも質問できます。

記

日時： 令和2年2月1日(土) 午前10時～

会場： なんなんひろば

参加申込法： 園を通じて申し込んでください。

お問合せ： 松本市子ども日本語教育センター 電話：25-7143



松本市子ども日本語教育センター 開設から10年経ちました！

2019年11月、松本市子ども日本語教育センターは開設より丸10年を迎えました。

松本市合併前の波田小学校からスタートした外国由来の子どもの日本語支援。その後、当時外国由来児童が多数通っていた田川小学校に拠点を移し、2009年11月に「松本市子ども日本語支援センター」として船出しました。

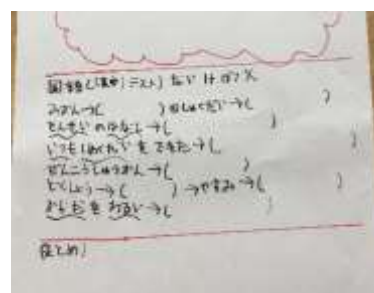
この10年、支援が必要な子どもたちが在籍する小中学校に日本語教育支援員を派遣し、一貫して子どもたちと向き合ってきました。この間、支援してきた子ども達は約250人。日本語がわからなかったり、日本の文化になじめなかったり、学校生活が大変だった多くの子どもたちの中には、大学を卒業し、立派に社会に羽ばたいていった若者も出てきています。

しかし、全員が同じ道をたどるかというところ、そうとは言い切れません。リーマンショック後の経済の悪化、また最近では少子高齢化による外国人労働者の受け入れの変化など、子どもたちの親の雇用状況は社会情勢に大きく影響され、そのたびに子どもたちは翻弄されています。昨日まで元気に通っていた子どもが、ある日突然転校してしまうといった事例を私たちは何度も見てきました。そのたびに「今、あの子はどんな思いをしているのだろう」「私たちが支援したことは、彼らのためになったのだろうか」などと思いをめぐらさずにはいられませんでした。

厳しい現実もありますが、私たちはこれまで共に学習した子どもたちとの日々を思い出しながら、今、この目の前にいる子どもたちとの瞬間を大切に、これからも変わらず支援したいと思っています。

さて、こちらで紹介する写真は子どもたちの学びの軌跡です。

右の写真は、今年の2学期にフィリピンから来日した女子児童が作った「学習プリント」です。勉強が大好きなDさんは、日本語教育支援員が毎回作って渡す学習プリントを真似て、自分でも作っています。時には、タガログ語練習プリントを作成し、支援員に「先生の宿題！」と言って渡すことも。学ぶ喜びに満ち溢れています。



左は、初期日本語指導が終わり漢字の学習をしている子どもの習得の様子。読めるようになった漢字がどんどん増える様子が子どもにもわかるように教室に掲示してあります。小さな積み重ねが彼らの自信につながります。

こうした一つ一つの学びが一人の人間を創り上げます。外国由来児童生徒は、二つの文化を持つ子ども達。大変な課題も抱えているケースもありますが、いい学びの環境を与えれば、世界を股にかける素晴らしい人間に育つのです。